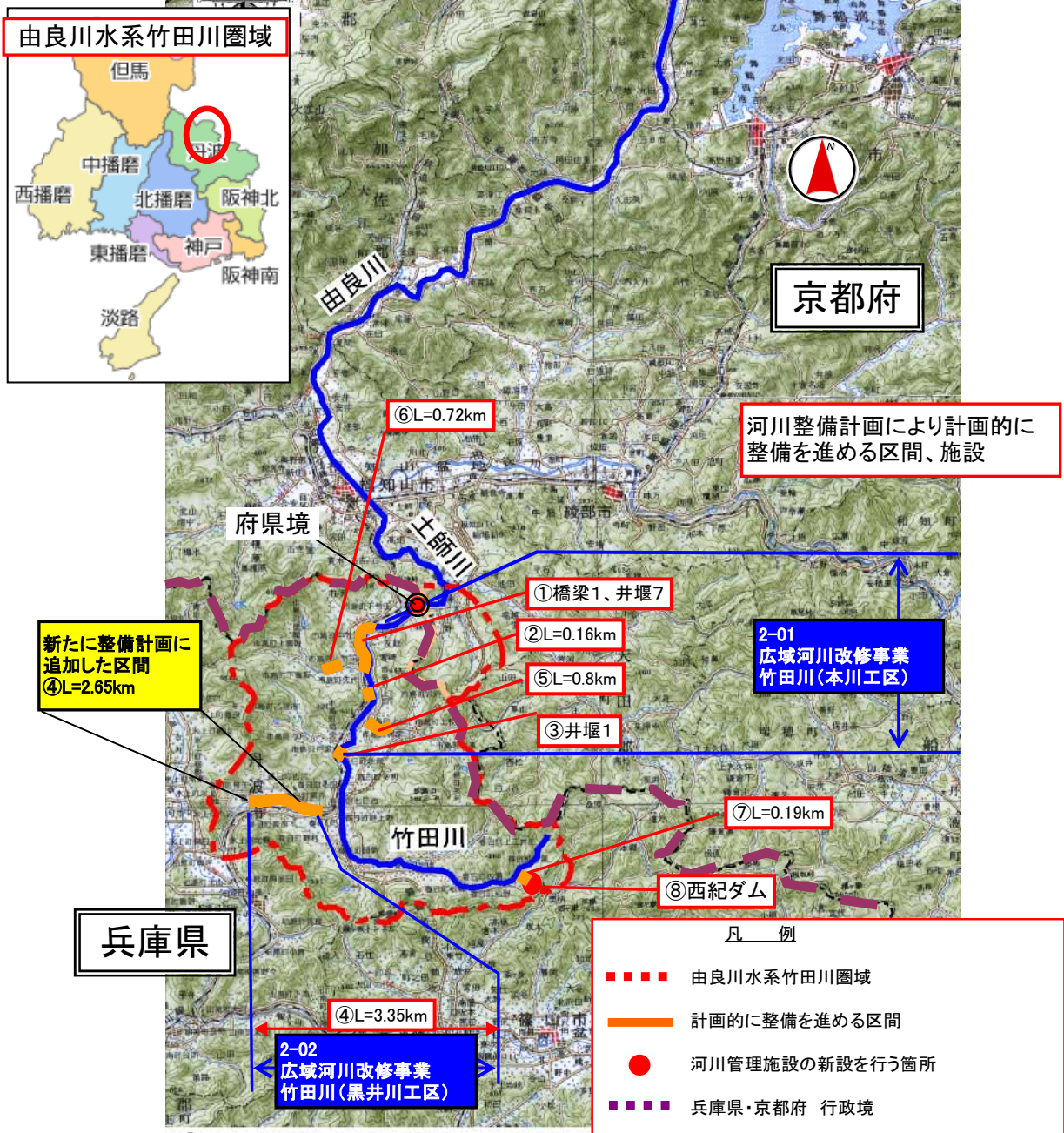


2. 由良川水系 竹田川圏域 河川整備計画(変更)

2. 由良川水系竹田川圏域 河川整備計画(変更) 全体位置図



河川整備計画の概要

策定年度	平成24年度（当初策定：平成14年度）				
変更理由	平成16年台風23号洪水による被害を踏まえ、整備区間を追加した。				
対象河川	由良川水系竹田川圏域内の全ての法河川（流域面積：168km ² ）				
整備目標流量	府県境地点 810m ³ /s〔昭和58年9月洪水規模<戦後最大>〕				
整備区間	河川名	No	整備区間	延長	備考
	竹田川	①	高町井堰～上島井堰（橋梁1橋、井堰7ヶ所）	—	事業中
		②	久良部橋～上垣橋	0.16km	事業中
		③	出会橋付近（井堰1ヶ所）	—	事業中
	黒井川	④	高龍寺橋～船城橋	3.35km	事業中
	鴨庄川	⑤	高橋～下島橋	0.80km	事業中
	前山川	⑥	宮ノ下橋～今中橋	0.72km	H23完了
	滝の尻川	⑦	滝の尻橋付近（橋梁1橋、井堰3ヶ所）	0.19km	未着手
		⑧	西紀ダム建設	—	事業中
対象期間	平成24年から概ね30年				

【2-01 一級河川 竹田川（本川工区） 広域河川改修事業】

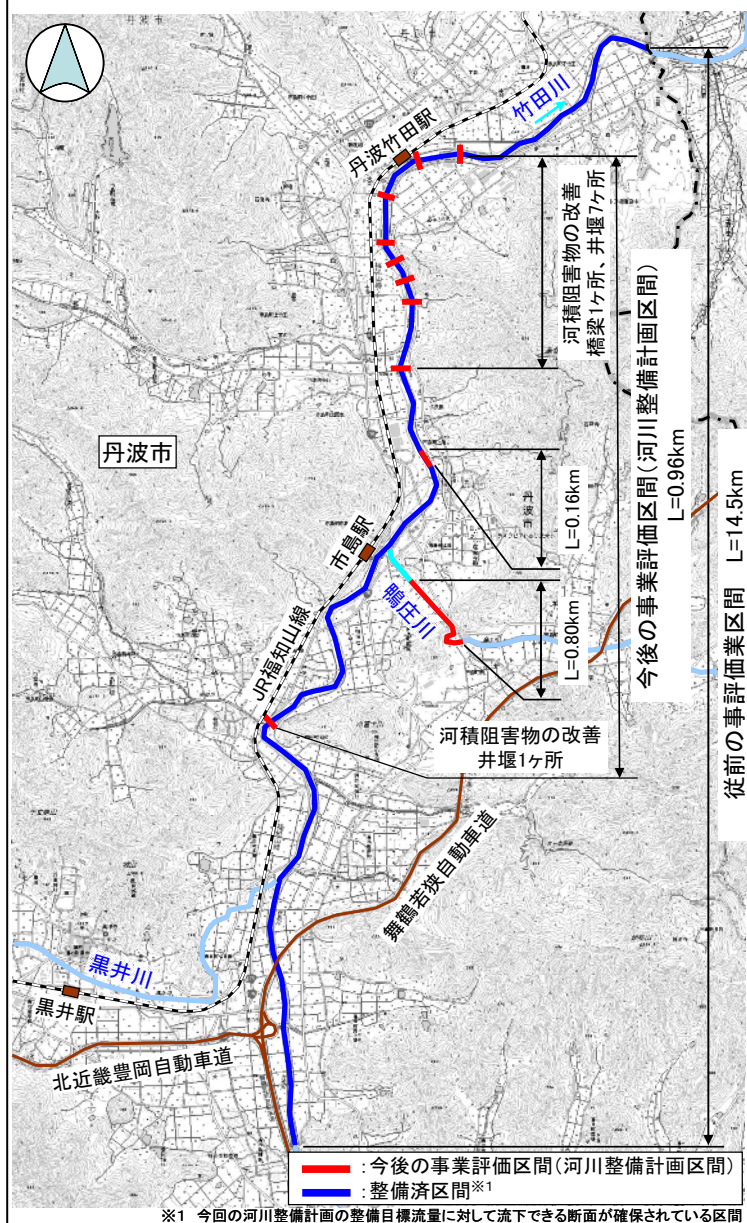
〔従前〕 従前の事業評価区間での比較

	現計画	前回評価時点 (H19)
事業採択年度	昭和 27 年度	昭和 27 年度
完成予定年度	平成 40 年度	平成 40 年度
総事業費	158 億円	158 億円
整備延長	14.5km	14.5km
整備区間	丹波市市島町下竹田～春日町棚原	

〔今後〕 河川整備計画に位置づけられた、今後の事業評価区間での比較

	現計画	前回評価時点 (H19)
河川整備計画策定年度 (事業採択年度)	平成 24 年度	平成 24 年度
完成予定年度	平成 40 年度	平成 40 年度
総事業費	36 億円	36 億円
整備延長	0.96km	0.96km
整備区間	丹波市市島町中竹田、上垣、 東勅使、上田～喜多	

事業概要図



事業変遷

昭和 20 年：阿久根台風洪水
 昭和 27 年：竹田川改修工事着手 (L=15.751km)
 中小河川竹田川改良工事全体計画書認可
 昭和 58 年：台風 10 号洪水 (浸水家屋 947 戸) ※1
 平成 2 年：台風 19 号洪水 (浸水家屋 90 戸) ※1
 平成 10 年：事業評価 (再評価)
 平成 11 年：由良川水系河川整備基本方針策定
 平成 14 年：由良川水系竹田川圏域河川整備計画策定
 事業評価 (再評価)
 平成 16 年：台風 16 号洪水 (浸水家屋 150 戸) ※2
 平成 19 年：事業評価 (再評価)
 平成 24 年：由良川水系竹田川圏域河川整備計画 (変更) 策定
 由良川水系竹田川圏域河川整備計画 (変更) 策定完了報告 (再評価)

※1：浸水家屋数は由良川水系竹田川圏域河川整備計画による

※2：浸水家屋数は水害統計による (旧市島町、旧春日町分)

河川整備計画策定報告【2-01】

部課室名	県土整備部土木局 総合治水課 河川整備課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	総合治水課 山内 良太 河川整備課 松本 正利 (課長補佐兼計画係長 恒藤 博文) (課長補佐兼治水係長 木村 浩之)	内線	4426 4408 (4431) (4437)
------	----------------------------	---------------------	--	----	----------------------------------

河川整備計画名	由良川水系竹田川圏域河川整備計画（変更）													
河川整備計画（変更）の策定経緯	平成 11 年 12 月 1 日 由良川水系河川整備基本方針策定													
	○河川整備計画（当初）策定 平成 14 年 10 月 29 日													
	○河川整備計画検討委員会（第 1 回～第 4 回）（平成 21 年 3 月 10 日～平成 21 年 12 月 8 日）													
	○河川整備計画（変更）策定 平成 24 年 6 月 19 日													
河川整備計画と事業評価の関係	採択	～H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
	S27	河川整備計画策定(当初)							委員会立ち上げ		河川整備計画策定(変更)			
		H10 再評価 ○		●				再評価 ○			●			◎報告
河川整備計画検討委員会の主な意見							対応等							
・井堰や橋梁等による河積阻害を解消してほしい。							・竹田川流域には井堰や橋梁による河積阻害が見られるため、井堰の統廃合や橋梁の改築を行い、狭窄部の流下能力を向上させる。							

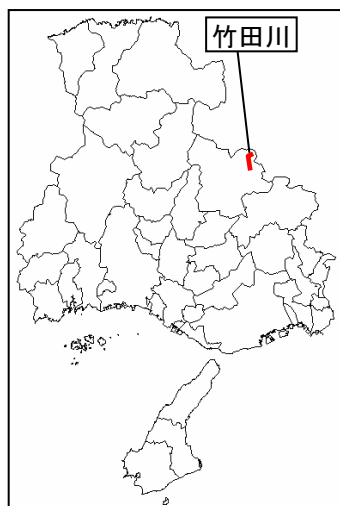
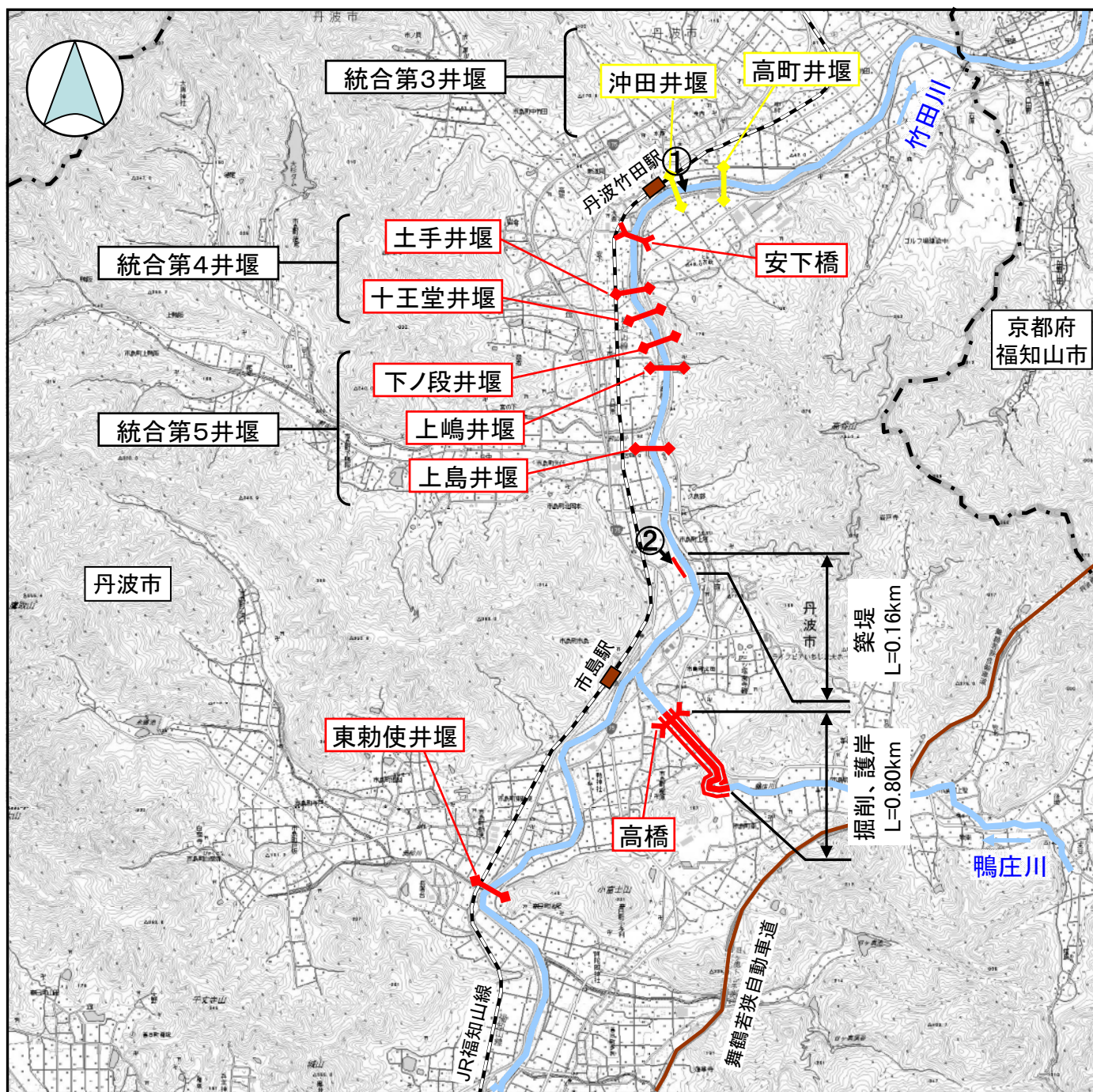
事業種目	河川事業	新規評価年度	—	現 計 画※1	前回 (H19)※2
事業名	一級河川 由良川水系 竹田川 広域河川改修事業 (本川工区)	河川整備計画策定年度 〔事業採択年度 着工年度〕	H24	総事業費	36億円
		再評価年度	—	内用地補償費	2億円
事業区間	丹波市市島町中竹田、上垣、東勅使、上田～喜多			完成予定年度	H40
所在地	丹波市市島町中竹田、上垣、東勅使、上田～喜多			進捗率 (内用補進捗率)	22% (7%)
				残事業費	28億円

事業の目的	事業内容		
当該河川では、昭和58年9月台風10号洪水、平成2年9月台風19号洪水等過去から度重なる浸水被害に見舞われており、近年では、平成16年10月台風23号洪水により浸水被害が発生している。 そのため、築堤、橋梁架替、井堰改築等による河川改修を実施し、戦後最大規模である昭和58年9月台風10号規模の洪水から浸水被害を防止し、地域住民が安全で安心して生活できる環境を確保する。		現計画	前回（H19）
	計画流量	810m ³ /s （府県境地点）	810m ³ /s （府県境地点）
	整備延長	0.96km	0.96km
	主要工種	掘削、築堤、護岸 橋梁 2橋 井堰 8基	掘削、築堤、護岸 橋梁 2橋 井堰 8基
	〔負担割合 国：1/2、県：1/2〕		

【前回評価時点からの事業計画の変更概要】	
① 河川整備計画 (変更) の策定に伴い、河川整備計画にあわせ事業区間等を見直した。	
(1) 必要性	① 竹田川流域は、昭和58年9月台風10号洪水をはじめ、平成2年9月台風19号洪水、平成16年10月台風23号洪水等で多くの浸水被害が発生した。 ② 当該事業においては、築堤、橋梁架替、井堰改築等が必要となっている区間が残っており、引き続き河川改修を進める必要がある。
(2) 有効性・効率性	① 費用便益比：B/C=1.8 ② 河川改修を実施することにより、昭和 58 年 9 月台風 10 号規模の洪水を安全に流下させ、浸水被害を防止する。 ③ 井堰改築の際には、統廃合を行うことで地元と合意しており、コストの縮減を図ることができる。
(3) 環境適合性	① 従前からあった瀬や淵等を可能な限り保全・復元するなど多様な生物の生活環境への影響を最小限にとどめる。 ② 井堰改築の際には、魚道を設置し、魚類の遡上に配慮する。
(4) 優先性	① 固定堰未改築箇所の流下能力は低く、また井堰の統廃合では地元の合意も得られる等の執行環境も整っており、早期に事業効果を発現させるためにも、優先的に改修を進める。
対応方針	策定された河川整備計画に基づき、事業の早期完了に向け、事業推進を図る。

※1：策定までに整備済みとなった部分を含む
※2：前回の再評価時の内容を河川整備計画区間で置き換えた値。

事業平面図



凡 例	
	橋梁
	井堰
	H24迄に完成箇所
	H25以降に実施予定箇所

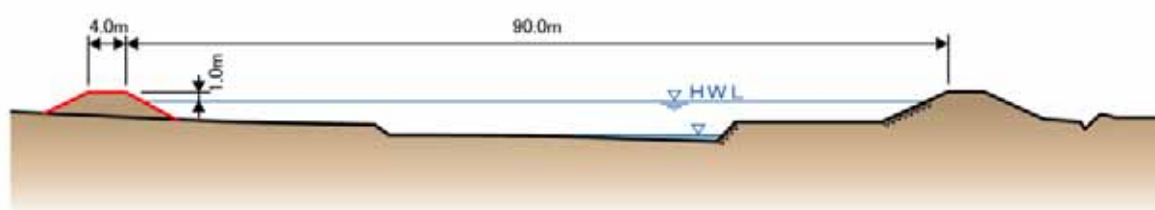
整備済区間(統合第3井堰(高町・沖田井堰))



未整備区間(久良部橋上流)



標準断面図(久良部橋上流付近)



【2-02 一級河川 竹田川（黒井川工区） 広域河川改修事業】

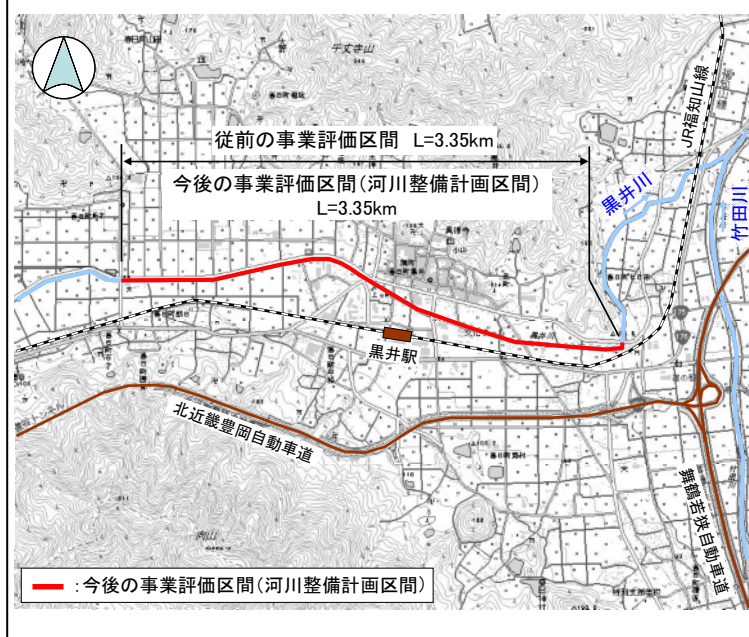
〔従前〕 従前の事業評価区間での比較

	現計画	前回評価時点 (H19)
事業採択年度	平成 4 年度	平成 4 年度
完成予定年度	平成 35 年度	平成 35 年度
総事業費	44 億円	44 億円
整備延長	3.35km	3.35km
整備区間	丹波市春日町野村～朝日	

〔今後〕 河川整備計画に位置づけられた、今後の事業評価区間での比較

	現計画	前回評価時点 (H19)
河川整備計画策定年度 (事業採択年度)	平成 24 年度	平成 24 年度
完成予定年度	平成 35 年度	平成 35 年度
総事業費	44 億円	44 億円
整備延長	3.35km	3.35km
整備区間	丹波市春日町野村～朝日	

事業概要図



事業変遷

昭和 20 年：阿久根台風洪水
 昭和 58 年：台風 10 号洪水（浸水家屋 947 戸）※1
 平成 2 年：台風 19 号洪水（浸水家屋 90 戸）※1
 平成 4 年：黒井川改修工事着手（L=3.35km）
 平成 10 年：事業評価（再評価）
 平成 11 年：由良川水系河川整備基本方針策定
 平成 14 年：由良川水系竹田川圏域河川整備計画策定
 事業評価（再評価）
 平成 16 年：台風 16 号洪水（浸水家屋 150 戸）※2
 平成 19 年：事業評価（再評価）
 平成 24 年：由良川水系竹田川圏域河川整備計画（変更）策定
 由良川水系竹田川圏域河川整備計画（変更）策定完了報告（再評価）

※1：浸水家屋数は由良川水系竹田川圏域河川整備計画による

※2：浸水家屋数は水害統計による（旧市島町、旧春日町分）

河川整備計画策定報告【2-02】

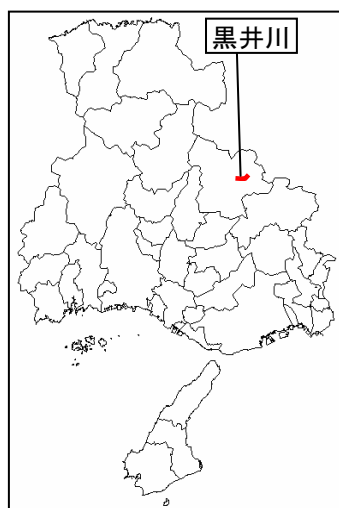
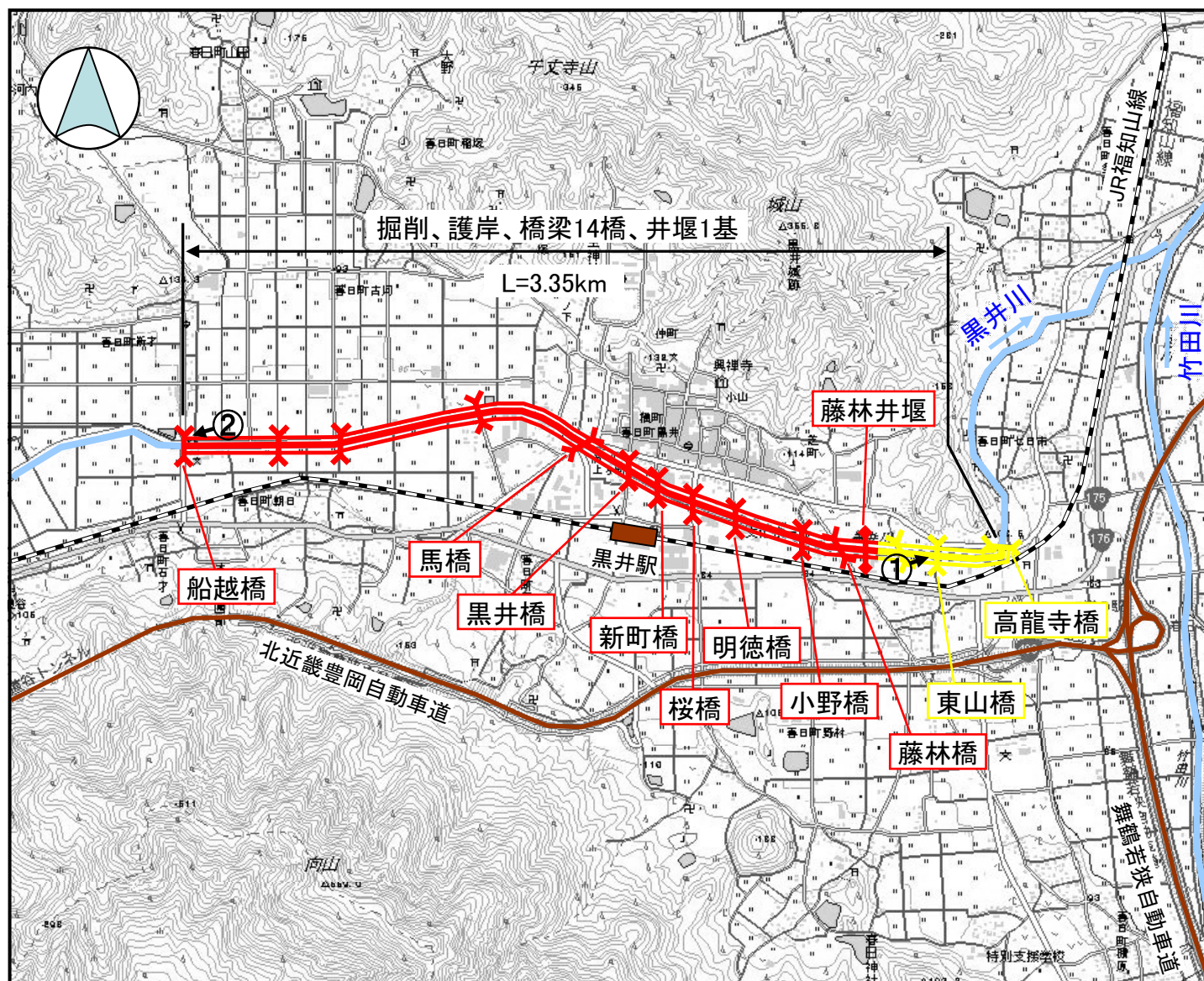
部課室名	県土整備部土木局 総合治水課 河川整備課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	総合治水課 山内 良太 河川整備課 松本 正利 (課長補佐兼計画係長 恒藤 博文) (課長補佐兼治水係長 木村 浩之)	内線	4426 4408 (4431) (4437)
------	----------------------------	---------------------	--	----	----------------------------------

河川整備計画名	由良川水系竹田川圏域河川整備計画（変更）													
河川整備計画（変更）の策定経緯	平成 11 年 12 月 1 日 河川整備基本方針策定													
	○河川整備計画（当初）策定 平成 14 年 10 月 29 日													
	○河川整備計画検討委員会（第 1 回～第 4 回）（平成 21 年 3 月 10 日～平成 21 年 12 月 8 日）													
	○河川整備計画（変更）策定 平成 24 年 6 月 19 日													
河川整備計画と事業評価の関係	採択	～H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
	H4	河川整備計画策定(当初)							委員会立ち上げ		河川整備計画策定(変更)			
		H10 再評価	●					再評価	○					◎報告
河川整備計画検討委員会の主な意見							対応等							
・黒井川沿いの桜への配慮をして欲しい。							・黒井川沿いの桜並木は良好な親水空間を形成しているため、桜並木を復元する。							
・希少種オグラコウホネに配慮して欲しい。							・ヨシやオギを植栽し、これらの緑陰を活かしてオグラコウホネの生育環境に配慮する。							

事業種目	河川事業	新規評価年度	—		現 計 画※1	前回 (H19) ※2
事業名	一級河川 由良川水系 竹田川 広域河川改修事業 (黒井川工区)	河川整備計画策定年度 〔事業採択年度〕 着工年度	H24	総事業費	44億円	44億円
		再評価年度	—	内用地補償費	17億円	17億円
事業区間	丹波市春日町野村～朝日			完成予定年度	H35	H35
所在地	丹波市春日町野村～朝日			進 捗 率 (内用補進捗率)	11% (1%)	7% (1%)
				残事業費	36億円	38億円
事業の目的				事業内容		
当該河川では、昭和58年9月台風10号洪水、平成2年9月台風19号洪水等過去から度重なる浸水被害に見舞われており、近年では、平成16年10月台風23号洪水により浸水被害が発生している。 そのため、河道拡幅、河床掘削等による河川改修を実施し、戦後最大規模である昭和58年9月台風10号規模の洪水に対し、家屋への浸水を軽減し、地域住民が安全で安心して生活できる環境を確保する。					現 計 画	前 回 (H19)
				計画流量	75m³/s (竹田川合流地点)	75m³/s (竹田川合流地点)
				整備延長	3.35km	3.35km
				主要工種	掘削、護岸 橋梁 14橋 井堰 1基	掘削、護岸 橋梁 14橋 井堰 1基
				〔負担割合 国：1/2、県：1/2〕		
【前回評価時点からの事業計画の変更概要】						
① 前回評価時点 (H19年度再評価) からの事業計画の変更はない。						
(1)必要性	① 竹田川流域は、昭和58年9月台風10号洪水をはじめ、平成2年9月台風19号洪水、平成16年10月台風23号洪水等で多くの浸水被害が発生した。 ② 当該事業においては、河道拡幅、河床掘削等が必要となっている区間が残っており、引き続き河川改修を進める必要がある。					
(2)有効性・効率性	① 費用便益比：B/C=2.4 ② 河川改修を実施することにより、昭和58年9月台風10号規模の洪水に対し、家屋への浸水被害を軽減する。					
(3)環境適合性	① 黒井川沿いの桜並木は良好な親水空間を形成しているため、改修にともなって喪失する桜並木を復元する。 ② オグラコウホネについては、分布調査を実施すると共に学識経験者の意見を聞きながら、生活環境に適した工法を検討し、保全に努める。					
(4)優先性	① 当該事業の未改修区間は流下能力が低く、旧春日町中心部は度重なる浸水被害を受けているため、優先的に改修を進める。					
対応方針	策定された河川整備計画に基づき、事業の早期完了に向け、事業推進を図る。					

※1：策定までに整備済みとなった部分を含む。
※2：前回の再評価時の内容を河川整備計画区間で置き換えた値。

事業平面図



凡 例	
	橋梁
	井堰
	H24迄に完成箇所
	H25以降に実施予定箇所

整備済区間(東山橋上流)



未整備区間(船越橋下流)



標準断面図(船越橋下流付近)

